

卒業生の振り返り調査結果

平成 30 年 11 月 学長調査戦略室

調査方法

調査目的：卒業生の在学時及び卒業後の状況把握

実施日：平成 30 年 8 月 19 日

調査方法：卒業後 30 周年同窓会にて出席者に質問紙を配布し、各テーブルに設置された封筒にて回収を行った。

調査対象：卒業後 30 周年同窓会出席者（昭和 63 年 3 月卒業生）

集計人数：有効回答 231（対象者：240 名 回収率：96.3%）

なお、学部・学科ごとの回答状況は以下のとおりである。

文学部 80 名（社会学科：6、国語国文学科：15、英語・英米文学科：21、史学科：5、地理学科：3、教育学科：30）

理学部 73 名（数学科：18、物理学科：15、化学科：23、生物学科：17）

家政学部 76 名（食物学科：24、被服学科：14、住居学科：19、生活経営学科：19）

学部・学科不明 2 名

調査結果

卒業直後の進路

卒業直後の進路を学部ごとにグラフにしたところ、図 1 の結果となった。

文学部は国家公務員・地方公務員、大学院進学の割合が他学部と比べて高かった。理学部・家政学部は共に民間企業の割合が高かったが、内訳としては、理学部は研究・技術職がほとんどであり、家政学部は研究・技術職も多いものの、事務職も同様に多かった。家政学部の研究・技術職については、昨年度調査では民間企業就職者 60 名中 11 名（18.3%）だったが、今回は 54 名中 25 名（46.3%）と大きく増加している。

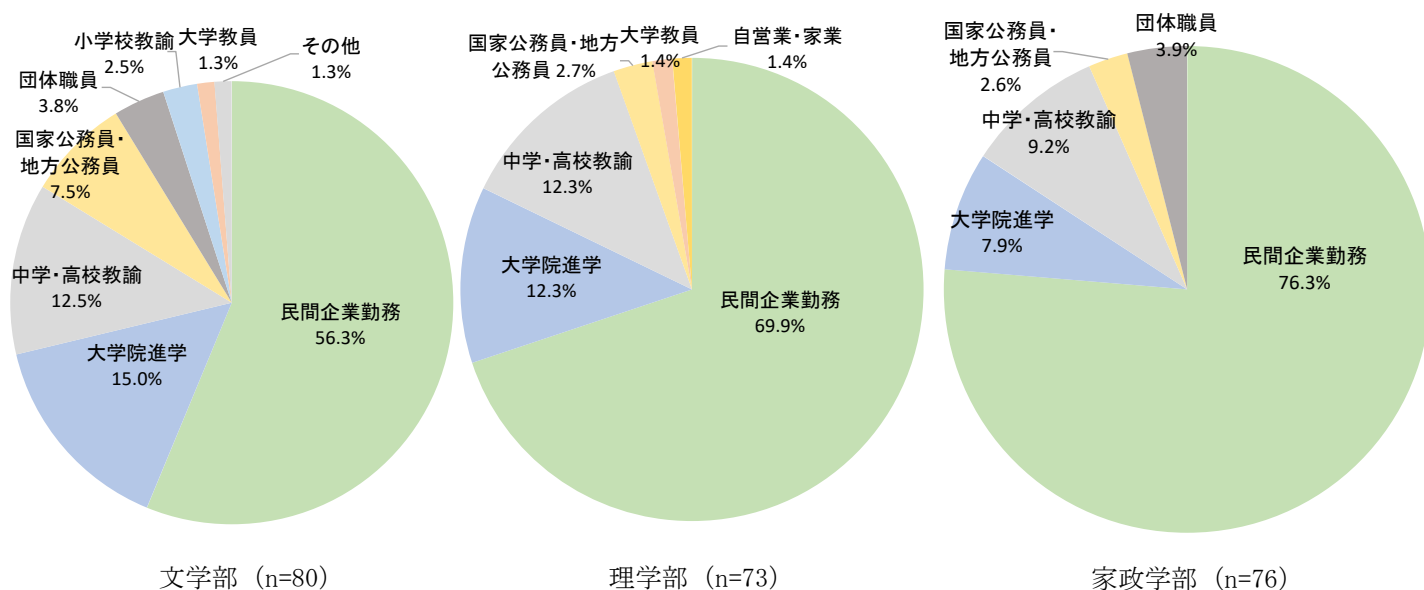


図 1 卒業直後の進路

次に、卒業直後の就職先での勤続年数について、ヒストグラムを作成したところ、最初の職場で勤続している者が最も多かった（図2）。卒業直後の就職先を離れるタイミングとしては、卒業後3～5年が最も多く、12年を経過すると離職者数が下がることが明らかになった。

また、勤続30年の卒業生（37名）の職種として多いものは、民間企業（20名）、中学・高校教諭（9名）、地方公務員（6名）であった。特に中学・高校教諭、地方公務員は就職者の母数自体がそれぞれ26名、9名と少ないため、他の進路より勤続年数が長い傾向にあると考えられる。

対して6年以内の離職は民間企業が最も多く、就職者229名中離職者は50名であった。民間企業の中でも営業職は回答した4名中3名が6年以内に離職しており、流動性が高い傾向がある。

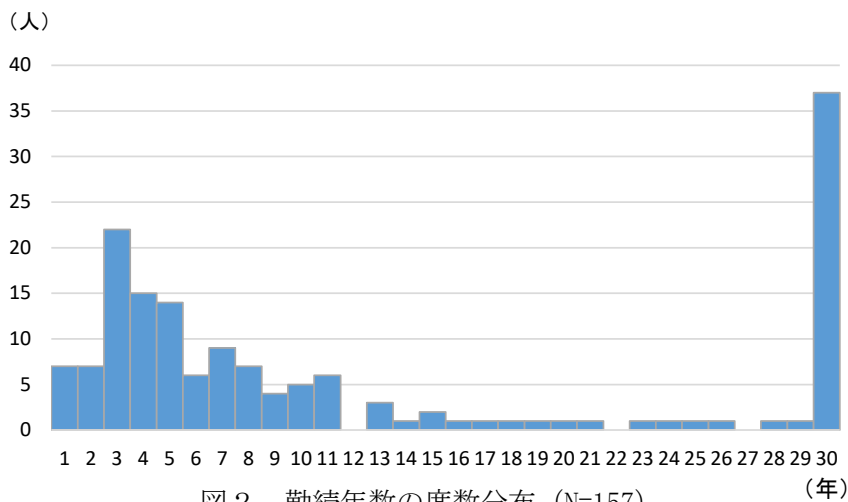


図2 勤続年数の度数分布 (N=157)

現在の状況

現在の状況について、学部ごとにグラフ化したものが図3である。全体として、卒業直後は民間企業に大きく偏っていた進路状況に多様性がでて、自営業・家業、専業主婦、大学教員・研究職の割合が増加している。昨年度調査と比較すると、文学部卒業生の民間企業勤務の割合が、20%から31.6%に上昇しており、自営業・家業が18%から7.6%に減少している。また、雇用形態は、卒業直後には200名中197名（98.5%）が正規雇用であったのが、現在は104名中57名（54.8%）と減少している。

学部ごとにみると、文学部については、国家公務員・地方公務員の割合が他学部より高く、専業主婦の割合が低い。理学部・家政学部の進路状況は似ているが、家政学部の専業主婦の割合が高い。

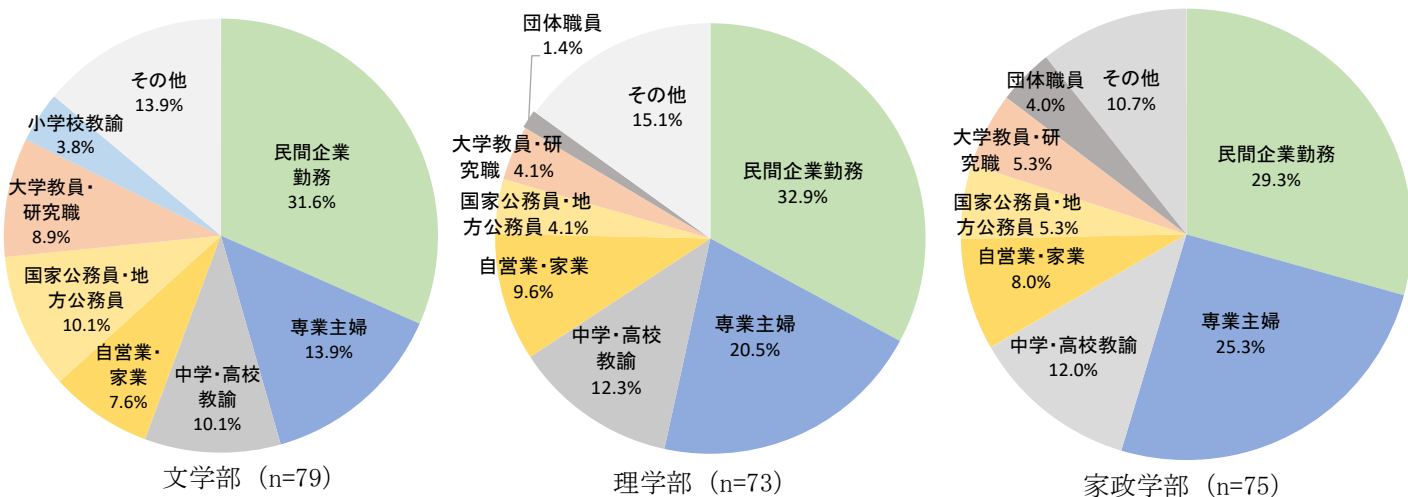


図3 現在の進路

卒業直後と現在の状況比較

卒業直後と現在の状況はどのように異なるのかを集計したところ、表1のようになった。民間企業に就職した者のうち、現在の状況で、一番多いのは民間企業勤務であるが、次に多いのは専業主婦である。また、卒業後、大学院へ進学した者については、現在大学教員・研究員に従事している者が最も多かった。

表1 卒業直後の進路と現在の進路のクロス集計

		直後進路大分類									
		民間企業勤務	団体職員	小学校教諭	中学・高校教諭	大学教員・研究職	国家公務員・地方公務員	自営業・家業	大学院進学	その他	合計
現在状況大分類	民間企業勤務	67 29.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.7%	0 0.0%	71 31.0%
	団体職員	3 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	4 1.7%
	小学校教諭	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.3%
	中学・高校教諭	4 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	21 9.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	0 0.0%	27 11.8%
	大学教員・研究職	2 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	3 1.3%	0 0.0%	0 0.0%	9 3.9%	0 0.0%	15 6.6%
	国家公務員・地方公務員	5 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 3.9%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	15 6.6%
	自営業・家業	13 5.7%	3 1.3%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	1 0.4%	0 0.0%	19 8.3%
	専業主婦	37 16.2%	2 0.9%	0 0.0%	2 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.7%	0 0.0%	45 19.7%
	その他	23 10.0%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	4 1.7%	1 0.4%	30 13.1%
	合計	154 67.2%	6 2.6%	2 0.9%	26 11.4%	3 1.3%	10 4.4%	1 0.4%	26 11.4%	1 0.4%	229 100.0%

大学で身についた能力・資質

各能力・資質について、大学で身についたと思うかたずねたところ、文学部については図4の結果となった。「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が高かった項目は、一般教養・知識、倫理観、主体的判断力、主体的行動力、協調性、自己表現・発信力であった。対して、語学力、IT活用能力は「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が50%以下であった。

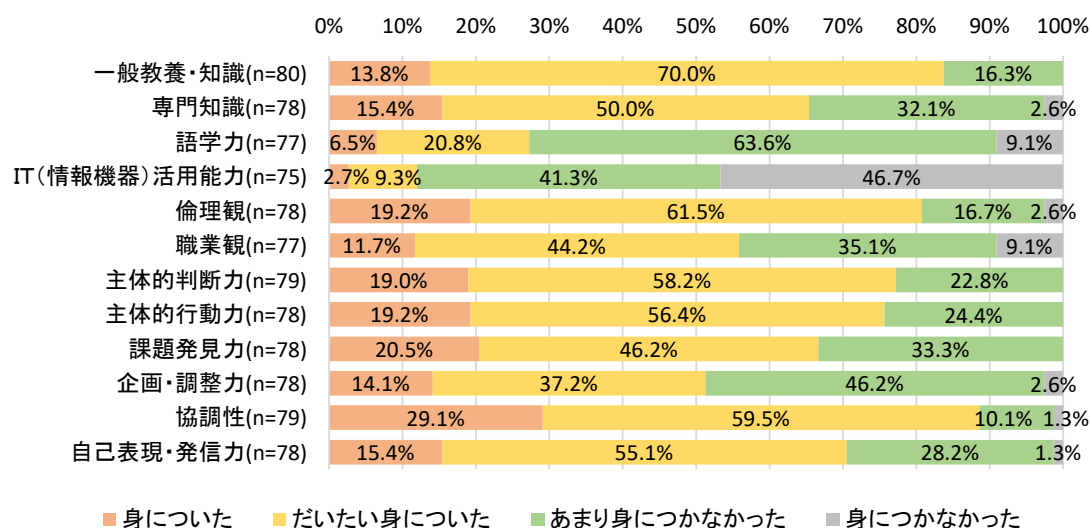


図4 文学部卒業生が在学中に身についた能力・資質

理学部も同様の分析をしたところ、一般教養・知識、主体的判断力、主体的行動力、協調性について、「身についた」、「やや身についた」と回答した割合が高かった（図5）。対して、語学力、IT活用能力、職業観、企画・調整力は「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が50%以下であった。

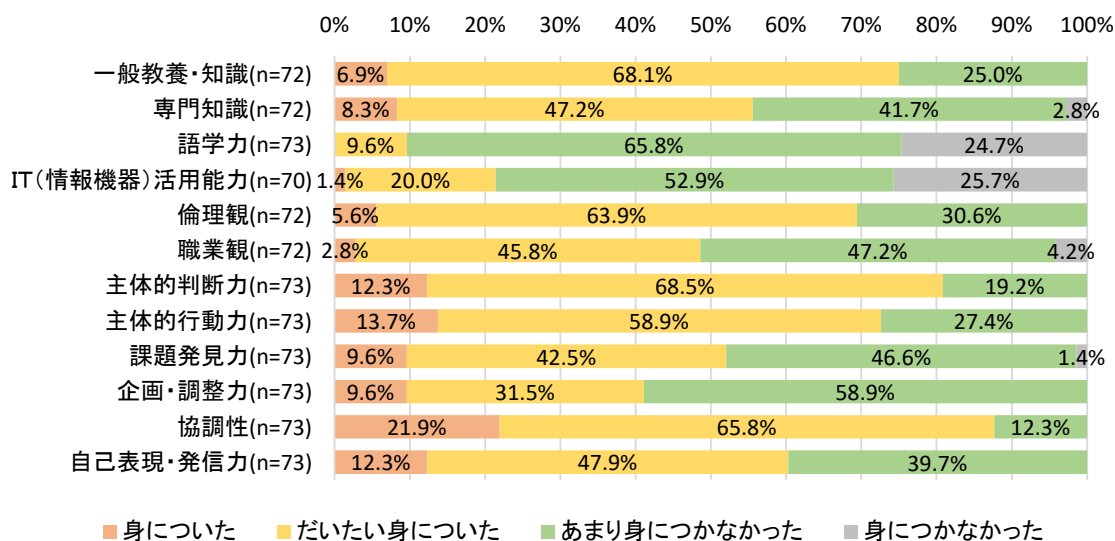


図5 理学部卒業生が在学中に身についた能力・資質

家政学部については、「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が高かったのは、一般教養・知識、専門知識、倫理観、主体的判断力、主体的行動力、協調性であった（図6）。対して「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が50%以下であったのは、語学力、IT活用能力であった。

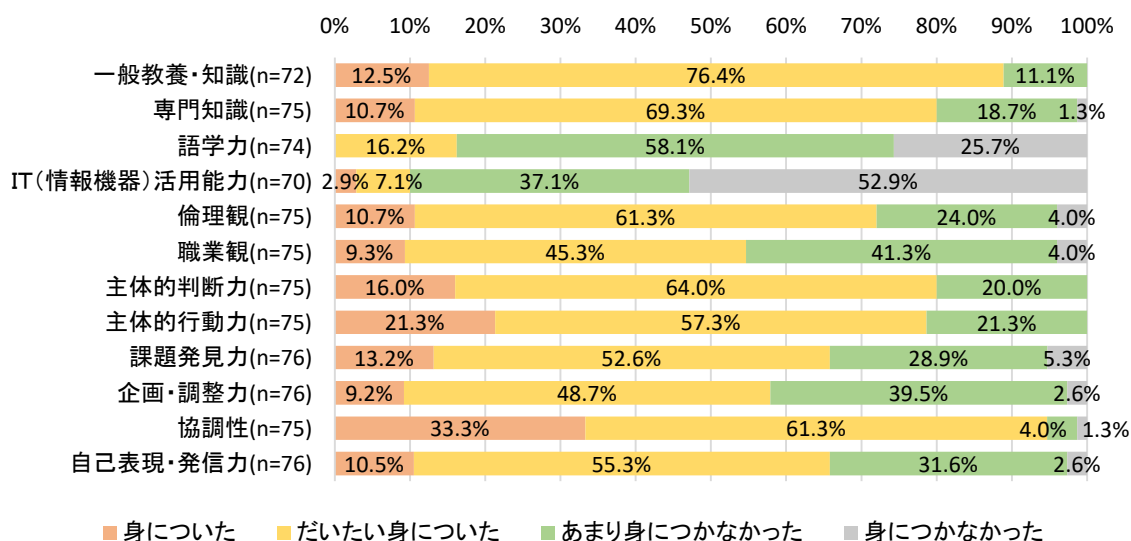


図6 家政学部卒業生が在学中に身についた能力・資質

身についた能力・資質の学部間の平均値の差を比較するために分散分析^{※1}をおこなった。その結果、専門知識(F(2, 222)=3.304, p<.05)、語学力(F(2, 221)=8.413, p<.01)、IT活用能力(F(2, 212)=4.866, p<.01)に有意差がみられた。多重比較^{※2}をおこなったところ、専門知識は理学部と家政学部、語学力は文学部と理学部・家政学部、IT活用能力は理学部と文学部・家政学部の間それぞれ有意差がみられることがわかった。

この三項目について、3学部の分布を比較したものが図7である。専門知識については家政学部、語学力については文学部、IT活用能力については理学部が在籍中に能力が身についたと回答した者が多かった。語学力及びIT活用能力は各学部の専門性にも関連してくるといえる。

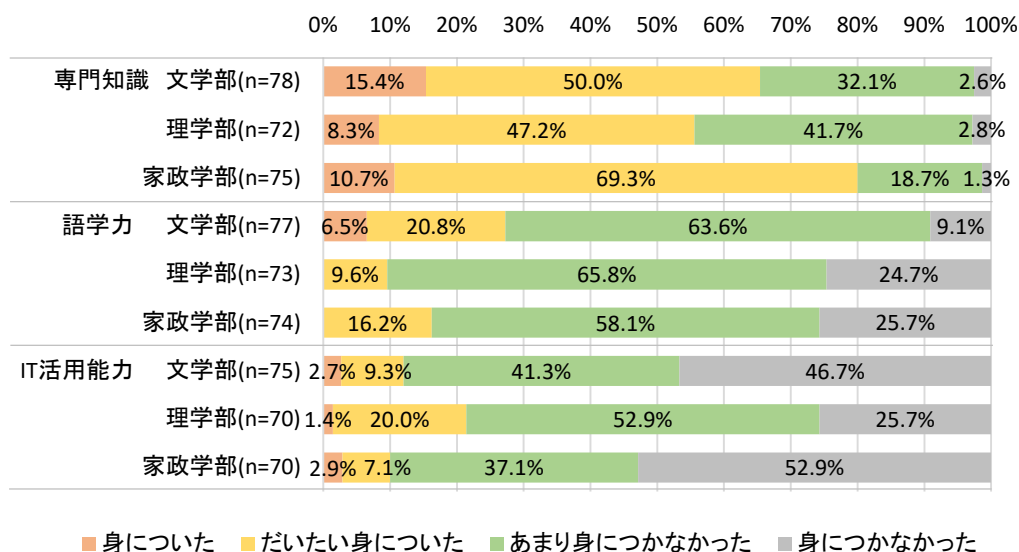


図7 卒業生が在籍中に身についた能力・資質の学部間比較
(平均値に有意差があった項目を抜粋)

なお、これらの能力・資質の中で「在学時、身につける必要性を感じていなかったもの」についてもたずねたところ、挙げた項目はほとんどなかったが、唯一多かったのがIT活用能力で、240名中24名が身につける必要性を感じていなかったと回答した。続いて多かったのは語学力(11名)であった。

また、能力・資質のうち、今振り返ると特に本学在学時に身につけておくべきだと思われるものを重要と考える順に3つまで回答してもらったところ、図8のような結果となった。

専門知識、語学力、主体的判断力、主体的行動力、課題発見力、自己表現・発信力といった項目が重要だと考えられており、対して一般教養・知識、倫理観、職業観、協調性といった項目は重要度が低かった。また、「最も重要」と考えられていた項目は専門知識、語学力、主体的判断力であった。IT活用能力については、在学時身につける必要を感じていなかった能力としてあげられていたが、この設問においてもそこまで重要度が高くは位置付けられておらず、在学時のイメージと卒業後の実態には大きな齟齬がなかったと考えられる。

※1 分散分析：3群以上からなるデータの母平均の差を検定する際に使用する分析方法。今回の場合、昭和63年卒業生において、在籍中に身についた各能力・資質の学部ごとの平均値に統計的に意味のある差(有意差)があるのかを調べるためおこなった。

※2 多重比較：各学部の平均に有意差があった際に、どの学部とどの学部間に有意差があるか調べるためおこなった。

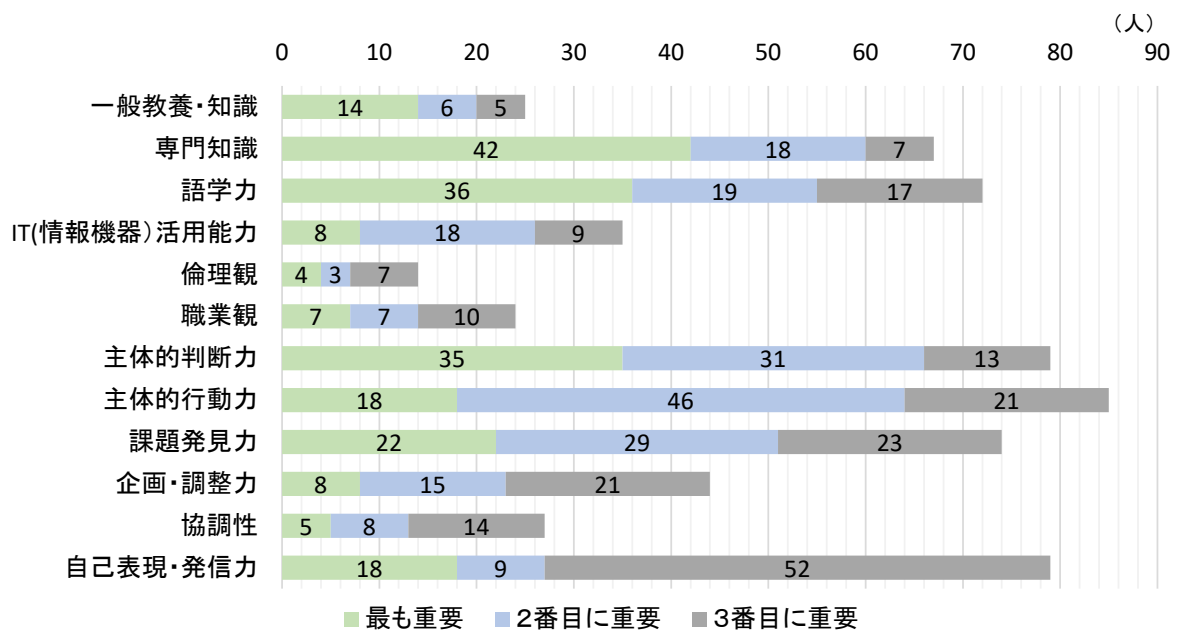


図8 重要だと考える能力・資質 (N=240)

在学時に受けた授業・実験・実習、研究室・ゼミ等で印象に残っているもの

在学時に受けた授業・実験・実習、研究室・ゼミ等で印象に残っているものについて自由記述で尋ねたところ、124件の回答があった。同窓会で配った影響もあるのか、具体的な授業名や教員名を挙げて振り返る回答が多かった。

印象に残った授業は講義から実習まで授業の形式は多様であり、科目の種類としても教養から専門まで幅広く挙がっていた。

大学で再び学ぶことについて

今後また大学で学びたいと思うか尋ねたところ、43.7%の93名が学びたいと思うと答えた(図9)。

またその理由としては、「興味のある分野の専門知識を深めたい」というような純粋に学問に取り組むことを希望する意見が最も多かった。続いて「現在の職業に生かしたいから」といった仕事に役立てるといふ動機が多く、12件あった。他に、「当時は価値をわからなかった、興味がなかった分野を今だからこそ学びたい」というように、学生時代と異なる目的や主体性を持って学び直したいという観点の意見が9件、「子育てを終え、新しい挑戦をしたいと思う」というように、時間的余裕が出来てきたタイミングであることから、学び直しを希望する意見が5件あった。

学びたい内容については、心理学(6件)や食・栄養・健康に関すること(6件)、芸術系、経済学、IT系(各3件)といった回答が多かった。

対して、大学での学び直しについて「どちらともいえない」、「思わない」と回答した120名に対し、その理由を尋ねたところ、一番多かった回答は時間・距離・費用等の問題で通うことが難しいという内容であった(42件)。また、「費用とモチベーションが心配」というように、意欲面でも課題があることがわかった。「生活に追われ、なかなかゆっくり学ぶことを考えられない」というように、仕事が忙しい中で、学び直しという選択肢が出てきづらいことも原因としてあげられていた。「ネット、時々スクーリング、単発、短期講座などなら」と、時間や距離の課題を解決できれば学び直したいという意見もみられた。

次に多かった理由として、「現在興味を持って学びたいと思えるものがない」という回答があげられた

(10件)。これに関連して、「工作上必要なスキルを得ることができるのであれば、学びたいと思う」など、資格や仕事に生かせる学びであれば興味があるという回答もあった(5件)。

他に、「歳を重ねるうちに、集中力が足りなくなってきたので」など、年齢的な問題が7件、「大学と限定しなくても、学ぶところはいろいろあると思うので」のように、大学以外の場所での学び直しを望む回答が5件あった。

図10にあるように、今回の回答者は近畿地方にいる者が一番多いが、卒業生は関東・甲信越や東海・北陸など、全国に居住している。また、今回は奈良で行われた同窓会であるため、遠方で参加できなかった卒業生がいる可能性を考えると、近畿圏以外にいる者の割合はより高くなる可能性がある。卒業生の学び直しにおいては、時間・距離への対応は特に必要となると考えられる。

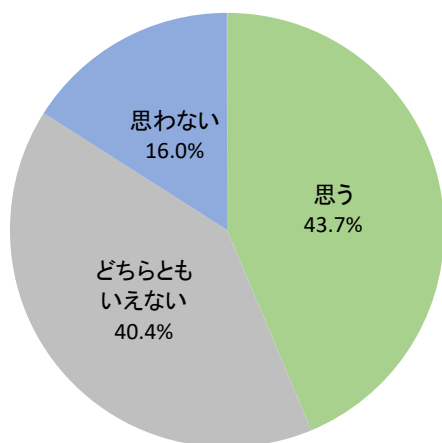


図9 今後また、大学で学びたいと思うか

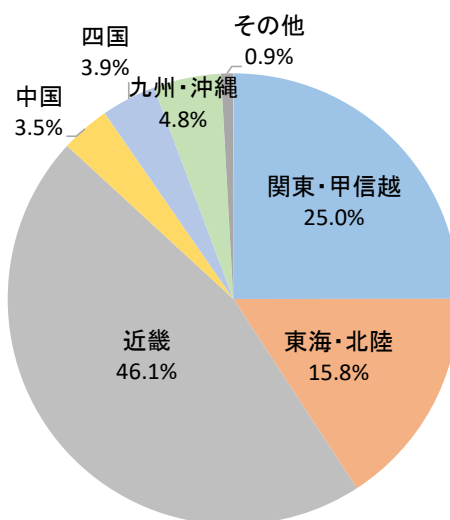


図10 現在の居住地

現在在籍している学生に対するサポート

現在在籍している学生に対して、本学が行うと良いと思われるサポートについて尋ねたところ、103件の回答があった。これを分類すると、昨年度と同様「就職、社会進出」、「国際」、「IT」に関するサポートへの意見が多かった。各分類について詳細と一例を示す。

就職、社会進出

就職、社会進出に関するサポートへの意見が17件あった。就職活動へのサポート、資格取得のための支援、インターンシップ、OGとの交流などが挙げられていた。

就職活動のサポートといっても、面接対策のような支援だけではなく、将来のキャリアを考える機会を与えるというような長い目を見た支援も重要だと捉えていることがわかった。

- ・就活サポート（東京などへの活動の際の宿泊補助など）。
- ・インターンシップやフィールドワークの充実
- ・将来を考える場を設けて欲しい。企業の入社時研修のような、自分と見つめるような機会もあるといい。

国際

国際教育に関する意見が 23 件あった。在学中に身につけておくべき能力・資質の項目においても語学力は最も重要と回答している人が多かったため、必要と実感している卒業生が多いと考えられる。

- ・ 留学する機会を増やして、サポートしてあげてください（期間などフレキシブルに）。
- ・ 語学力は絶対に必要だと思うので、TOEIC 等の補助をして試験を積極的に受けられるようにする。

I T

I T 関連のサポートに関する意見が 7 件あった。在学中に身につけておくべき能力・資質の項目において I T 活用能力はあまり重視されていなかったが、「現在在籍している学生に対して」新たに必要な資質・能力として認識されている可能性がある。また、システムの充実の観点からも意見が寄せられた。

- ・ I T 教育、プレゼンの仕方
- ・ コンピューター、I T のシステムを充実させるとよい。プロジェクト型の講義を取り入れて、それを海外にも発信できるような教育を取り入れる。

大学に求めるもの

「今、あなたは奈良女子大学に何を求めますか？」という設問に対し、98 件の回答があった。

これを分類すると、「大学の存続と発展について」、「卒業生に対する支援」、「公開講座、学び直し」、「教育方針」、「情報発信、P R」への意見が多かった。各分類について詳細と一例を示す。

大学の存続と発展について

大学の存続と今後の発展についての意見が 19 件あった。

- ・ 大学の改革が大変でしょうが、“奈良女”として生き残ってください。
- ・ 小規模ながらアットホーム的な大学のままで、ますますアカデミックな領域での発展を望む。

卒業生に対する支援

卒業生への情報提供や講座の開講、OG 同士が集ったり、就労支援を行ったりするシステムについての要望が 16 件あった。

- ・ 卒業生が参加できる講座などを開いてほしい。
- ・ 卒業生に対して、仕事やスキルとそれを必要とする企業、大学、公共機関などとのマッチング。
- ・ 卒業生に対して、集まれる機会、イベントなどを作っていただきたいです。
- ・ 今回の調査のように、就労について、追跡調査をしていただき、さらにその先のご指導までいただけたら嬉しく思います。あと、この講義を受講しに来たら〇〇の資格が取れるよ、等のアナウンスを開講。

公開講座、学び直し

公開講座や学び直しについての意見が 14 件あった。

- ・ 実生活に関わりのあるテーマでセミナーとかあれば、参加してみたい。
- ・ 短期の学び直しのプログラム等があるといいと思います。

教育方針

大学の教育方針についての意見が 12 件あった。

- ・日本の政治には女性の普及の感覚が欠けていると思う。そこをくみ取り社会を変えていける人材の教育、養成
- ・今と少し先の未来と遠い将来を見据えて、どんな形でも世の中の役に立つ専門性を発揮できる女性を育成してほしい。

情報発信、PR

大学の情報発信、PRについての意見は 9 件あった。知名度の上昇だけではなく、女子大自体の存在意義の発信が求められていることがわかった。

- ・関東在住だが、奈良女の認知度が低いのでもう少しアピールしてほしい。
- ・女子大学の今こそその存在意義を全国に知らせて欲しい。

他には、OGと在学生の交流、他大学との連携、本学卒業生を教員に採用することについての意見が各 2 件あった。

奈良女子大学卒業生の振り返り調査

(平成 30年 8月 実施)

奈良女子大学では、女子高等師範学校の頃から百有余年の間にここ「奈良」の地で培った「女性リーダーの育成」の実績を活かし、次世代へつなぐ人材の養成と研究の展開に取り組んでいます。

特に人材の養成においては、卒業生が大学での「学び」をどのような形で個々の礎とし、社会生活の中で生かしているかということが、本学の教育のあり方を検討するにあたり重要な観点であり、今後、継続的に調査していきたいと考えております。

今現在、本学に在籍する学生が有意義な学生生活を送るため、ご協力の程よろしくお願いいたします。

ご記入上のお願い

- ・設問1)～4)まではあてはまる回答についている数字を○で囲んでください。
「その他」にあてはまる場合は、その数字を○で囲み、()の中に具体的な内容をご記入ください。
- ・○は各質問ひとつずつ付していただくよう、お願いします。
- ・お答えになりにくい質問には無理にご回答いただかなくてもかまいません。
- ・ご回答は統計処理され、決して個人が特定できることはございません。
- ・ご回答いただきました調査票は、各テーブルにございますアンケート回収袋に入れていただきますようお願いいたします。
- ・調査に関するご質問は、下記連絡先までお問い合わせください。

【本件担当】

奈良女子大学 学長調査戦略室

(事務担当)

総務・企画課大学改革推進係

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL 0742-20-3692

E-Mail hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp

1) 本学で在籍した学科を教えてください。

[学部] (文学部は専攻名、理学部・家政学部は学科名で、該当するものに○)

- | | | | | |
|-------------|--------------|---|----------|------------|
| 文学部 | 11. 社会学科 | (111. 哲学専攻 / 112. 社会学専攻) | | |
| | 12. 国語国文学科 | (121. 国語国文学専攻 / 122. 中国語・中国文学専攻) | | |
| | 13. 英語・英米文学科 | (131. 英語・英米学専攻 / 132. 言語文化学専攻) | | |
| | 14. 史学科 | (141. 日本史学専攻 / 142. 東洋史学専攻 / 143. 西洋史学専攻) | | |
| | 15. 地理学科 | | | |
| | 16. 教育学科 | (161. 教育学専攻 / 162. 教育方法学専攻 / 163. 心理学専攻 / 164. 体育学専攻) | | |
| 理学部 | 21. 数学科 | 22. 物理学科 | 23. 化学科 | 24. 生物学科 |
| 家政学部 | 31. 食物学科 | 32. 被服学科 | 33. 住居学科 | 34. 生活経営学科 |

2) 上記で答えていただいた**奈良女子大学卒業直後の進路**について教えてください。

(該当するものに○)

2-1 進路

01. 民間企業勤務(011. 事務 012. 営業 013. 企画 014. 販売 015. 管理 016. 研究・技術)
02. 団体職員(021. 事務系 022. 技術系 023. 研究職)
03. 自営業・家業 04. 幼稚園教諭・保育士 05. 小学校教諭 06. 中学・高校教諭
07. 大学教員(研究分野:) 08. 研究職(07以外)(研究分野:)
09. 国家公務員(091. 事務系 092. 技術系 093. 研究職)
10. 地方公務員(101. 事務系 102. 技術系 103. 研究職)
-
11. 大学院進学(大学 専攻) 12. 各種専門学校進学
13. 大学への再入学 14. 留学 15. 専業主婦 16. その他(具体的に)

《2-1で01~10を選ばれた方は、以下の2-2~2-4にもお答えください》

- 2-2 雇用形態 1. 正規 2. 非正規 3. その他 ()
2-3 雇用期間 1. 期限無し 2. 期限付き 3. その他 ()
2-4 最初に就職したところでの勤続年数 ()年

3) **現在の状況**について教えてください。(該当するものに○)

3-1 現在の状況

00. 変化無し
01. 民間企業勤務(011. 事務 012. 営業 013. 企画 014. 販売 015. 管理 016. 研究・技術)
02. 団体職員(021. 事務系 022. 技術系 023. 研究職)
03. 自営業・家業 04. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭 05. 小学校教諭 06. 中学・高校教諭
07. 大学教員(研究分野:) 08. 研究職(07以外)(研究分野:)
09. 国家公務員(091. 事務系 092. 技術系 093. 研究職)
10. 地方公務員(101. 事務系 102. 技術系 103. 研究職)
-
11. 大学院在学(大学 専攻) 12. 各種専門学校在学
13. 大学への再入学 14. 留学中 15. 専業主婦 16. その他(具体的に)

《3-1で1~10を選ばれた方は、以下の3-2~3-3にもお答えください》

- 3-2 雇用形態 1. 正規 2. 非正規 3. その他 ()
3-3 雇用期間 1. 期限無し 2. 期限付き 3. その他 ()

4) 現在お住まいの地域について教えてください。(該当するものに○)

01. 北海道 02. 東北 03. 関東・甲信越 04. 東海・北陸 05. 近畿
 06. 中国 07. 四国 08. 九州・沖縄 09. その他 ()

5) 下記の**能力・資質**について、**大学で身についたと思われるかどうか**、お伺いします。それぞれについてあてはまるものひとつに○をつけてください。

また、下記の能力・資質のうち、**在学時、身につける必要性を感じていなかったもの**について、右端の () に○をつけてください。

	身についた	だいたい身についた	あまり身につかなかった	身につかなかった	必要性を感じなかった
記載例	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	(○)
1 一般教養・知識	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()
2 専門知識	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()
3 語学力	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()
4 IT (情報機器) 活用能力	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()
5 倫理観	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()
6 職業観	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()
7 主体的判断力	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()
8 主体的行動力	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()
9 課題発見力	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()
10 企画・調整力	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()
11 協調性	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()
12 自己表現・発信力	-4-----	3	-----2-----	-----1-----	()

6) 5) の**能力・資質**のうち、**今振り返ると特に本学在学時に身につけておくべきだと思われるもの**を、重要と考える順に3つまで、**番号**でお答えください。

回答欄： 1. _____ 2. _____ 3. _____

7) 在学時に受けた授業・実験・実習、研究室・ゼミ等で印象に残っているものについてお答えください。

(「〇〇先生の△△の授業が面白かった」「〇〇のシステムがあって良かった」「□□が悪かった。もっと△△であれば良かったのに」等)

[]

8) 大学での学び直しについて、お尋ねします。

8-1 今後また、大学で学びたいと思いますか。(該当するものに○)

1. 思う 2. どちらともいえない 3. 思わない

8-2 (1. 思う) を選ばれた方は、その理由と学びたいことを、

(2. どちらともいえない 3. 思わない) を選ばれた方は、その理由 (費用、距離、興味の有無等) をお答えください。

[]

9) 現在在籍している学生に対し、本学が行うと良いと思われるサポート等、ご意見がありましたらお聞かせください。

(「〇〇の教育を取り入れると良い」、「△△のシステムを充実させてあげて欲しい」等)

[]

10) 今、あなたは奈良女子大学に何を求めますか?

(「卒業生に対し、〇〇の講座を開いて欲しい」「△△のサービス提供をして欲しい」等)

[]

ご協力ありがとうございました。